



# Weekly Report

クラブ会長  
テーマ

心のふれあいを求め 和の中から行動を

2001-2-28 第499回例会 NO.11-32 2001-3-14 発行

- 司会 SAA委員会 北村 幸彦
- ◎ 点鐘 会長 津守 弘範
- ◎ ロータリーソング「日も風も星も」  
ソングリーダー 吉沢 洋景
- ◎ お客様紹介 会長 津守 弘範  
R財団国際親善奨学生 安室可奈子様  
遠藤 立一様
- ◎ 会務報告 会長 津守 弘範

- 2、出席免除扱いで高村さんが休会されておりますが現在、南武病院に入院されております。  
3月2日に手術をされ3月17日退院の予定です。一日も早い回復をお祈り申し上げます。
- 3、外に他クラブからの例会変更が来ております。

◎ 次年度会務報告 会長エレクト 足立 潤三郎

今月21日第一回の被選クラブ協議会が開催され各委員長さんより力強い抱負が述べられまして私も非常に力強よく感じております。

【委員会報告】

- 1、例会終了後理事会を開催致しますので終わり次第事務局にお集まりください。
- 2、東京日野RC35周年記念式典のご案内が来ております。  
7月11日(水) 16:00 登録  
17:00 式典  
場所 京王プラザホテル八王子
- 3、ニュータウンタイムズが配布されておりますが、先日皆さんにお配りした新世代委員会より発行された「思っていること言いたいこと」の本が紹介されておりますので皆さんお読みください。

◎ 幹事報告 幹事 伊澤 ケイ子

- 1、本日皆さんにロータリー通信が配布されております。地区大会についてですがそのため3月7日の例会は振替となりますので注意してください。  
日時 3月9日(金)  
登録開始 8:30  
点鐘 9:30  
場所 新高輪プリンスホテル・飛天

尚、電車の時間も掲載してありますのでご利用ください。

◎ 出席報告 出席委員 福島 達也

会員総数 43名  
出席義務者数 41名(出席免除者2名)  
出席者数 37名  
欠席者数 4名(事前MU 無)  
出席率 90.24%(37/41)

2月14日 最終訂正出席率87.5%  
欠席者 藤原 正範 小泉 博  
佐伯 和廣 高野 範城

◎ ニコニコBOX 親睦活動委員 小林 和夫

- 津守 弘範 明日より3月春です、遠藤立一さん残念です。今月で3分の2は終わりました。
- 伊澤 ケイ子 遠藤立一さん残念です、早いお帰りを待っています。
- 須藤 起雄 2月21日デュエットのつり銭です。
- 杉山 英巳 来る途中、暮れなずむ空に月の脇を白い飛行機雲が走っていました。
- 小泉 武男 家の前の公園の梅が満開になりました。

加藤喜三郎 猪股さんお久しぶり。  
 杉野志保子 遠藤さん残念です。  
 北村 幸彦 遠藤会員の退会誠に残念です。  
 次々に古い会員が退会されるのは寂しいですね。  
 大松 誠二 安室さんようこそいらっしゃい。  
 今年も花を咲かせよう。  
 遠藤 二郎 遠藤立一さん、グリーンは今一番あなたを必要としているのですが残念です。  
 遠藤 立一 しばらくお休みをいただきます。

◎ 遠藤立一氏退会について 会長 津守 弘範

遠藤さんはこの多摩グリーンでなじみの深い、正義感のあふれる方でございます。こういう方が退会ということは非常に残念なことでございます。私ども何回か遠藤会員のお宅にお邪魔しお話をさせていただきましたが退会ということになりました。再度また近いうちにお戻り願いたいと思います。

花束贈呈 幹事 伊澤 ケイ子

退会挨拶 遠藤 立一氏

足かけ7年の間お世話になりましたが私もそろそろ70歳も近くなりましたので色々準備もしておきたいと思ひまして退会を決意いたしました。  
 人生の後始末などに時間がかかるかと思いますが、その間ロータリーを休む理由がないものですから一度休ませていただきまたお声がかかれば1年か1年半後に入会させていただく事になるかも知れません。私はロータリーの精神はずばらしいものがあると思っております。私自身カトリックのクリスチャンであり、また大学時代から座禅をやっており指導も受けております。  
 ロータリー哲学ほど人間の中で人間が人間らしく生きて行く上で非常にわかり易いものはないと思っております。  
 今後の人生もロータリー哲学を大事にして努力していきたいですから、今は退会させていただきますがロータリー哲学というものは皆さんと同じように心の中に大事にしてそれを磨き上げるようにして人生を大事にしていきたいと思っております。  
 皆様のご多幸と、ご健勝をお祈り申し上げまして挨拶とさせていただきます。

一会員プロフィール（第26回）大松 誠二  
 〈年代記〉

- 1942年（昭和17年）東京王子区十篠に生まれるも、まもなく空襲を逃れて、千葉市に移り住む（全て記憶なし）。
- 小、中、高校と何事も無く平々凡々と過ぎる。
- 大学に入り、突如芝居に目覚めてから人生時計が狂い始める。「恋愛と才能は錯覚の産物である」事に気付くには遅く、4年間を加藤登紀子らと演劇に明け暮れる。
- 卒業後、一時就職するが、またまた映画作りに走る。当クラブ会員のMさんと違って、「前衛映画」では勿論食えず、飢えた野良犬の目をした貧しくも豊かな青春の日々……
- 続いて出版社の編集者時代。70年代、時代の先端を走っていると自負していた出版社「現代男潮社」で、政治・芸術運動の渦に巻き込まれつつ、必死にしがく。
- アメリカに渡り、農場で暮らすヒッピー達との生活で、自然に近づいた新しい道＝仕事を考える。
- 日本に帰り、測量事務所のアルバイトで、境界石を埋めるための穴掘りを毎日続ける。（今でも水虫、痔とはお友達）。
- 測量の勉強を始め、「土地家屋調査士」他の資格を取り、年季奉公した後、独立する。
- 「土地家屋調査士」とは、土地・建物の現況を正確に登記簿に表わす仕事。例えば、土地の境界を立会い、確定して、面積を正しく登記する等。経験と技術に加えて、利害が反する人々を納得させることに苦勞している毎日。
- 現在：東京土地家屋調査士会綱紀委員、同境界鑑定委員、元多摩支部長現相談役。多摩市登記相談員。
- 最近読んでお薦めの本：天童荒太「永遠の仔」、高村 薫「レディ・ジョーカー」、シュリンク「朗読者」、クツエー「恥辱」、クック「夜の記憶」等々。
- 生かされてある一日を後悔することなく生きてゆけたらいいですね。



（今週の担当 北村 幸彦）